

国スポ・全スポ奈良大会に向けた 施設整備等について

文化・教育・くらし創造部

【橿原公苑】

国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会準備室 宮崎、河内

内線 5307、5317

スポーツ振興課 野田、西川

内線 5275、5271

施設整備推進室 竹林、浦南

内線 2410、2405

【橿原文化会館】

文化振興課 中村、田中

内線 2150、2152

令和6年1月4日（木）
知事定例記者会見資料

基本的な状況

- 奈良県も国全体も、人口減少と少子高齢化が進展。スポーツ人口が量的に大きく拡大していく状況ではなく、単に施設を作るだけで地域が活性化するという環境にはない。
- 国スポ大会については、必要性も含め、国レベルで課題が指摘、議論が始まっている。
- 他方、スポーツは、子どもや若者の心身の成長等に大きな役割。このため、今後の施設のあり方としては、スポーツをしたい人が快適にスポーツに親しめる環境が重要。



奈良大会に向けた方針

- 以上を踏まえ、2031年奈良大会では、過度にイベント的なものとせず、スポーツをする人に良い環境を提供することに特化した、コンパクトな、新たな大会のあり方を示す。
- このため、奈良大会に向けては、開催に必要な最小限の施設整備・改修を行う。
- また、「大会後」を見据えては、上記の状況認識を踏まえ、子どもから高齢者まで、障害のある人もない人も、多くの県民が様々なスポーツに取り組める環境を充実させる。
- 以上を踏まえた、県立橿原公苑の各施設のリニューアルの方針は別紙のとおり。

橿原公苑リニューアル整備の方針

子どもから高齢者まで、障害のある人もない人も、
多くの県民が様々なスポーツや活動により快適に取り組みめる環境へ

野球場

○ 主な改修内容

- ・ バリアフリー化(車椅子スペースを増設 等)
- ・ 外野グラウンドの拡張
(両翼93m→97m程度、中堅120m→122m程度)
- ・ 防球ネットの新設・拡張
(メインスタンド外周部分の新設等)
- ・ スコアボードの更新、外野人工芝の張替
- ・ グラウンド照明のLED化
- ・ メインスタンドの長寿命化、観客席の美装化
- ・ トイレ、大会運営に必要な審判員室・更衣室・記者室など諸室の美装化 等

○ 想定工事費 約20億円

(※現時点での試算で資材価格等の物価変動あり)

プロ野球の開催も可能な本格的な野球場
に生まれ変わり、バリアフリー対応も充実

陸上競技場

○ 主な改修内容

- ・ バリアフリー化(車椅子スペースを増設 等)
- ・トラック・インフィールドを基礎から改修してリニューアル
- ・ 多目的広場の練習用走路整備
- ・ 競技場照明のLED化
- ・ メインスタンドの長寿命化、観客席の美装化
- ・ トイレ、大会運営に必要な役員室・更衣室など諸室の美装化 等

○ 想定工事費 約30億円

(※現時点での試算で資材価格等の物価変動あり)

リニューアルされたトラックなど、選手も観客も、快適に競技・観戦できる陸上競技場に

新たなアリーナと武道場

○ 主な整備内容

- ・ 2つの体育館を統合して、**新たなアリーナを新設**するとともに、**武道場・弓道場を整備**。
- ・ 体操や武道など国スポ開催基準を満たすメインアリーナ・サブアリーナを配置する。
- ・ 競技床面積、観客席数、大会運営に必要な会議室や控室等は、各競技団体や利用者ニーズを踏まえ、今後検討する。
- ・ 音楽イベント等スポーツ以外の利用が可能となるよう、関係団体や利用者ニーズを踏まえ、多目的な利用が出来るよう整備する。

○ 今後の検討事項

民間活力も含めた事業手法 等

○ 想定工事費 約130億円

(※現時点での試算で資材価格等の物価変動あり)

若者らが様々なスポーツを存分に楽しめる場となるとともに、音楽などスポーツ以外の多目的利用も可能に

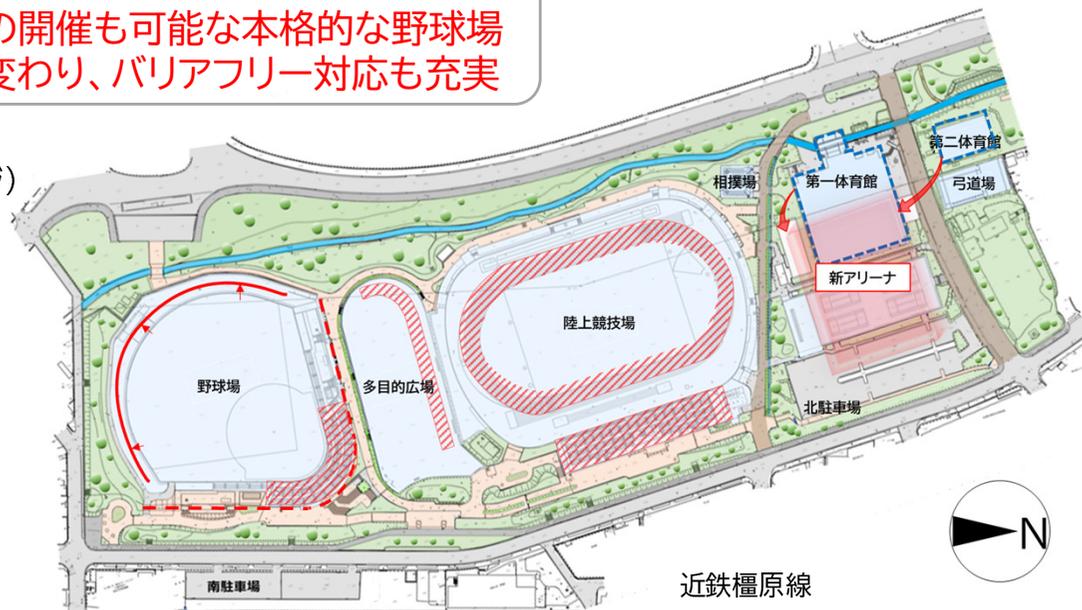
想定総工事費 約180億円程度

(※現時点での試算で資材価格等の物価変動あり)

○ 工事費には次の項目は含まない

- ・ 調査・設計・工事監理費用
- ・ 土木外構工事費
- ・ 備品調達費用
- ・ インフラ関係整備費

(整備イメージ)



至 橿原神宮前駅

至 畝傍御陵前駅

前計画との比較

(前計画)



出所：国土地理院地図をもとに作成

- 1 市営檜原運動公園の一部及び周辺民地を取得し、県営の第一種陸上競技場を新設
 想定工事費 約210億円(うち用地費55億円、整備費155億円)
- 2 県立檜原公園内に県営の多機能複合型アリーナを新設
 想定工事費 約220億円(うち用地費20億円、整備費200億円)
 県立檜原公園野球場の代替施設整備
 想定工事費 約50億円

(今回の計画)

約300億円の削減

(整備イメージ)



- 県立檜原公園を整備
 (整備内容)
 - 野球場 改修
 - 陸上競技場 改修
 - 新アリーナ 第一体育館と第二体育館を統合して建替え
 - 武道場・弓道場を整備
 - 想定総工事費 約180億円程度
 (※現時点での試算で資材価格等の物価変動あり)

橿原文化会館の特徴と課題

- ・ 立地条件が良い（大和八木駅）
- ・ 老朽化が進み（築40年以上経過）、ユニバーサル・デザイン化も課題

【参考】改修経費等

➤機能保持に最小限必要な経費：特定天井改修等 約22億円

県有施設の近況

- ・ 奈良県文化会館の再整備（令和9年度中リニューアルオープン予定）
- ・ なら歴史芸術文化村、奈良公園バスターミナルなど、小ホール保有施設の開設
- ・ 橿原公苑における新アリーナ建設検討

橿原文化会館の主な機能を新アリーナに移管
展示機能については大和八木駅周辺で代替を検討
地域活性化に向け、用地の活用を関係機関と連携し検討